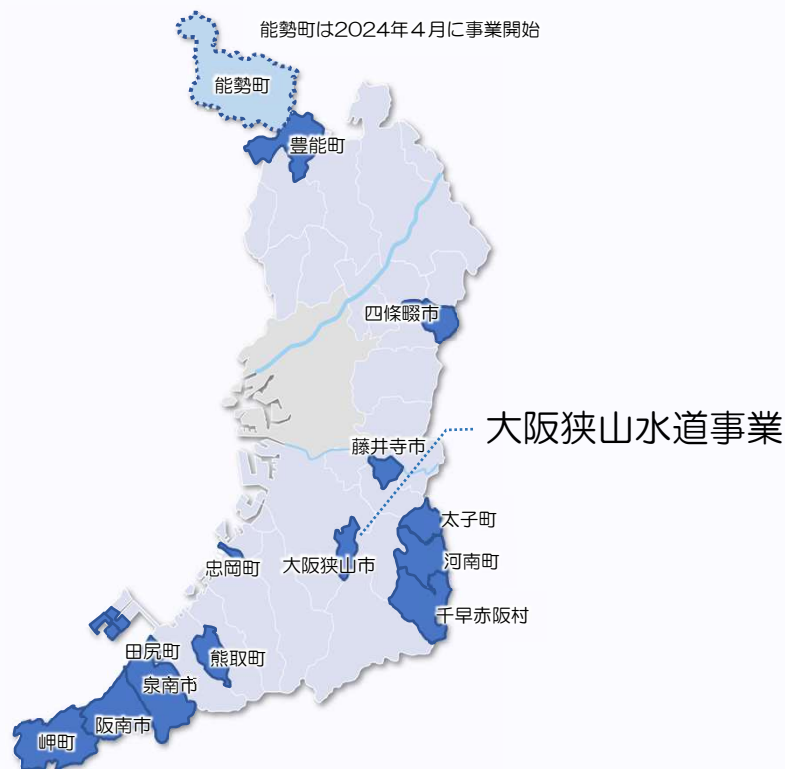


2023年度の主な取組

■ 市町村域水道事業（13水道事業）

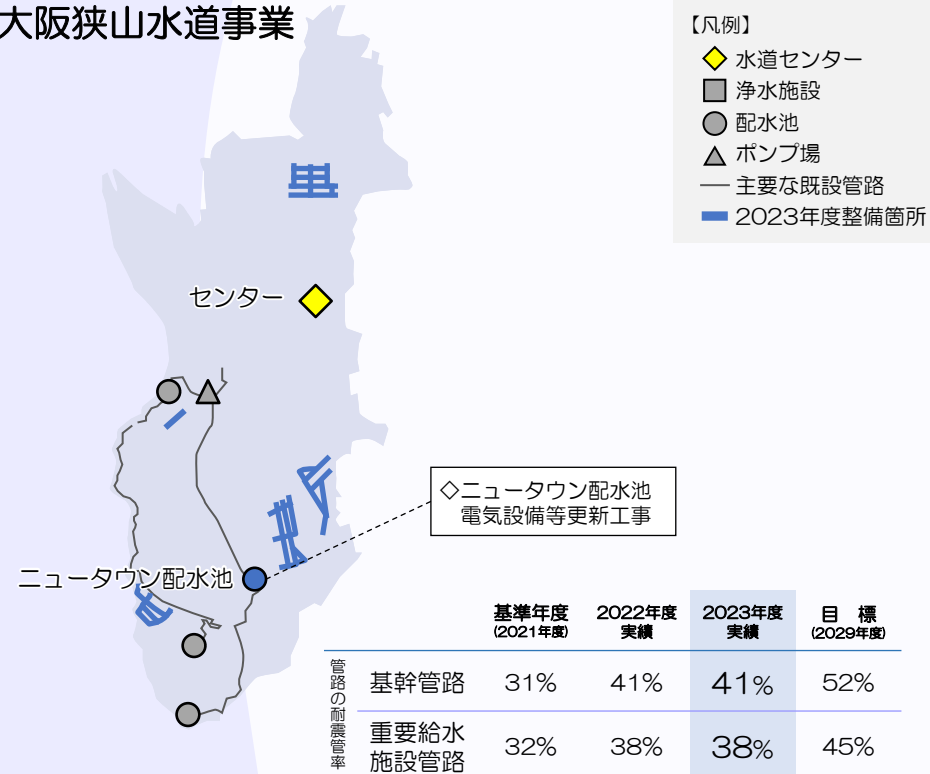


市町村域水道事業の耐震化目標について教えて！

各水道事業で施設や財政等の状況を考慮し、「老朽度」や「管の種類」などから優先すべき施設整備や管路の更新・耐震化を計画し目標を設定しています。

また、一部の水道事業で管路の耐震管率の目標が基準年度と同じ値になっているのは、耐震管以外でも「布設された地盤の状況などから耐震性があると評価できる管」があり、これらが更新基準年数を経過していない場合は、計画期間中の更新を見込んでいないためです。

■ 大阪狭山水道事業



2023年度の執行額は4.1億円で、実施した主な事業は次のとおりです。



管路の更新・耐震化

- 配水管布設替工事
(東茱萸木地区) R5-1

更新時期を迎えた管路の更新・耐震化を実施しました。

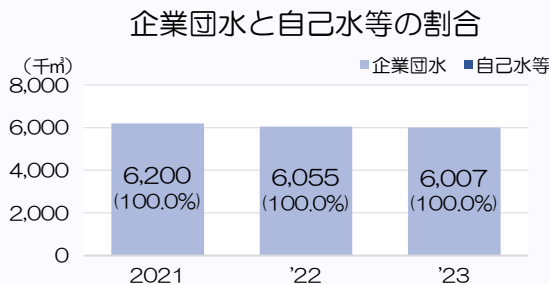
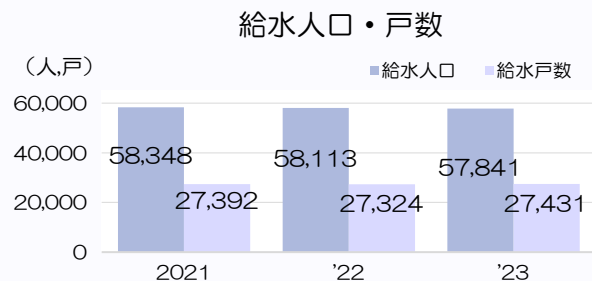
2023年度
執行額 74百万円

その他の取組

- ニュータウン配水池の電気設備等更新工事を実施しています。

■ 大阪狭山水道事業

給水人口や給水量の推移



2023年度末の給水人口は57,841人で、前年度と比べて272人(0.5%)減少しています。
また、給水戸数は27,431戸で107戸(0.4%)増加しています。
給水量は6,007千m³で、前年度と比べて48千m³(0.8%)減少しています。なお、給水量のうち企業団水の占める割合は100%です。

財政収支

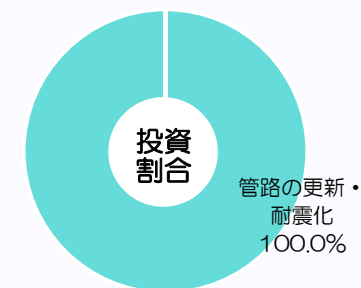
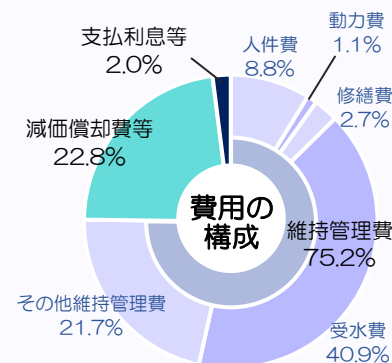
(単位：百万円、税抜)

収益的収支	2022決算(a)	'23決算(b)	差引(b)-(a)
収 益	1,174	1,157	△ 17
給水収益	973	959	△ 14
長期前受金戻入	114	113	△ 1
その他収入	87	84	△ 3
特別利益	0	1	1
費 用	1,060	1,057	△ 3
維持管理費	804	795	△ 9
減価償却費等	234	241	7
支払利息	22	21	△ 1
特別損失	0	0	0
単年度損益	114	100	△ 14

(単位：百万円、税込)

資本的収支	2022決算(a)	'23決算(b)	差引(b)-(a)
収 入	258	126	△ 132
企業債	83	-	△ 83
国庫補助金等	111	81	△ 30
その他収入	64	45	△ 19
支 出	607	519	△ 88
建設改良費	513	434	△ 79
企業債償還金	93	85	△ 8
その他支出	1	-	△ 1
収支の差額	△ 349	△ 393	△ 44

*収支の差額については、積立金等で補てん



※投資割合は建設改良費の内訳のことです。



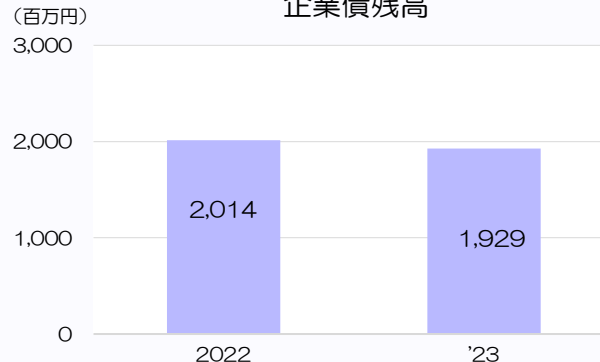
収益は、有収水量の減少により給水収益が減少したことなどにより、前年度と比べると17百万円減少しました。
費用は、人件費や動力費の減少により維持管理費が減少したことなどにより、前年度と比べると3百万円減少しました。
これらの結果、単年度利益は前年度に比べ14百万円減少し、100百万円となりました。

財政収支の推移

単年度損益



企業債残高



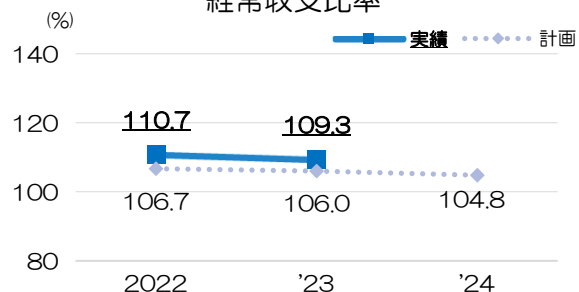
有収水量・有収率



経営評価

○：計画を達成 △：計画を概ね達成（計画値との乖離が5%未満） ×：計画を未達成

経常収支比率



達成状況	2020	'21	'22	'23	'24
	—	—	○	○	

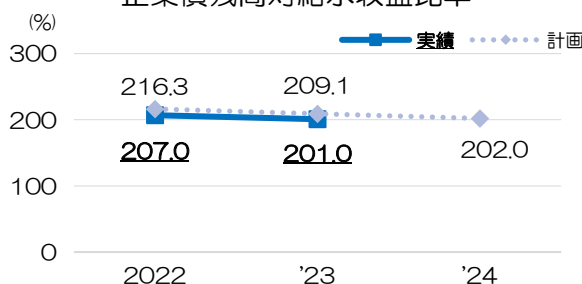
〈算出式〉 経常収益／経常費用×100

給水収益や繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表し、100%以上となっていることが必要です。

2023年度の実績は、計画を達成しました。なお、前年度と比べると、給水収益が減少したことから、1.4ポイント減少しています。

【参考:2022年度類似団体平均値109.1%】

企業債残高対給水収益比率



達成状況	2020	'21	'22	'23	'24
	—	—	○	○	

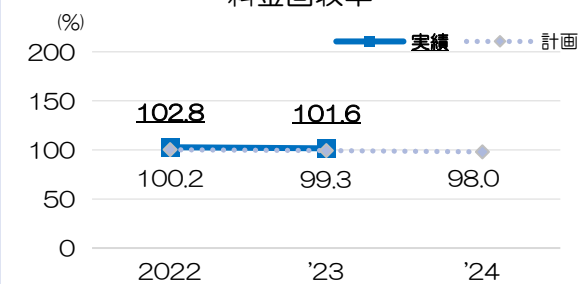
〈算出式〉 企業債現在高合計／給水収益×100

給水収益に対する企業債の割合であり、企業債残高の規模を表します。明確な数値基準はなく、経年比較や類似団体比較等により適正な数値となっているかをみる指標です。

2023年度の実績は、計画を達成しました。また、前年度と比べ、企業債残高が減少したことから、6.0ポイント減少しています。

【参考:2022年度類似団体平均値307.3%】

料金回収率



達成状況	2020	'21	'22	'23	'24
	—	—	○	○	

〈算出式〉 供給単価／給水原価×100

※供給単価＝給水収益／有収水量

給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表します。

2023年度の実績は、計画を達成しました。なお、前年度と比べると、給水収益が減少したことから、1.2ポイント減少しています。

【参考:2022年度類似団体平均値98.3%】

※大阪狭山水道事業については、2021年4月に統合したため、経営戦略において2021年度以前の計画値を設定していないことから、2022年度から2024年度までの3か年の推移をお示ししています。